

令和7年度山形県環境審議会 第2回環境計画管理部会 議事録

1 日 時

令和7年10月31日（金） 午後1時33分～午後3時33分

2 場 所

オンライン会議

3 出席者等（敬称略）

(1) 出席委員及び特別委員

阿部 達雄 井上 洋輔 今村 哲史 工藤 美乃 國方 敬司  
色摩 慶子 内藤いづみ 堀川 敬子 本間 佳子 三浦 秀一  
佐々木 剛（東北経済産業局長代理） 藤田 宏志（東北地方環境事務所長代理）

(2) 欠席委員

鈴木 雅史

(3) 県・事務局

環境エネルギー部長	沖本 佳祐
環境エネルギー部次長	高嶋 智弘
環境科学研究センター所長	笹渕 健市
環境エネルギー部環境企画課長	土屋 昭子
エネルギー政策推進課長	粕谷 伸幸
水大気環境課長	後藤 忠史
循環型社会推進課長	安孫子 恵子
循環型社会推進課廃棄物対策主幹	原田 泰浩
みどり自然課長	木内 真一
みどり自然課みどり県民活動推進主幹	山寄 優

4 会議の概要

(1) 開 会

(2) 挨 拶

環境エネルギー 一部長	<p>本日はお忙しい中、環境審議会 第2回環境計画管理部会に御出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃、本県の環境行政全般につきまして、格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。</p> <p>報道等で皆様御承知のことかと存じますが、県内においては、今年度、クマの目撃件数が過去に例を見ないペースで増加しており、現時点で1,900件を超えております。市街地での出没や人身被害も相次ぎ、県民の皆様のご生活に大きな不安を与えております。</p> <p>このような鳥獣被害への的確な対応・対策は、私たちが直面する環境課題の一端を象徴するものと認識しております。</p>
----------------	--

	<p>こうした中、本県におきましては、カーボンニュートラル社会の実現、そして「持続的発展が可能な豊かで美しい山形県」の構築に向けて、「第4次山形県環境計画」で掲げる6つの施策の柱に基づき、県民総ぐるみによる運動の展開や再生可能エネルギーの導入拡大、3Rの推進、生物多様性の保全など、各種取組みを進めているところでございます。</p> <p>さて、本日は、「第4次山形県環境計画」及び「第3次山形県循環型社会形成推進計画」の中間見直し版の素案について御審議をいただきたいと存じます。</p> <p>この素案は、前回の部会でお示しいたしました計画の進捗状況や、計画策定後の社会経済情勢の変化、委員の皆様などからこれまでに頂戴した御意見等を踏まえて作成したものです。</p> <p>今後につきましては、素案の調整を重ねながら、パブリックコメントの手続きを行うなどして中間見直し版の案を作成し、3月の答申・策定へと進んでまいりたいと考えております。</p> <p>委員の皆様には、幅広い見地から忌憚のない御意見、御提言を頂戴し、より実効性の高い計画としてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
--	--

(3) 議事録署名人の指名について

<p>國方部会長</p>	<p>山形県環境審議会運営規則第7条の規定により、「審議会の会議については、議事録を作成し、議長及び議長の指名した委員2名が署名する」とされております。つきましては、私以外の議事録署名人として、井上洋輔委員及び工藤美乃委員を指名します。</p>
--------------	--

(4) 議 事

① 第4次山形県環境計画及び第3次山形県循環型社会形成推進計画の中間見直しについて

<p>國方部会長</p>	<p>続きまして、次第の「4 議事」に移ります。</p> <p>本日は、前回に引き続き、山形県知事から諮問を受けた「第4次山形県環境計画の中間見直しについて」及び「第3次山形県循環型社会推進計画の中間見直しについて」、審議いたします。</p> <p>前回の部会で各委員からいただいた御意見等を踏まえ、事務局で両計画の中間見直し版の素案を作成いたしました。この両計画の素案の概要版につきまして、続けて事務局から説明していただいたあと、委員の皆様から御意見等をいただくこととしたいと思います。</p> <p>それでは、はじめに「第4次山形県環境計画の中間見直しについて」、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(資料1、2及び3により説明)</p>
<p>國方部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p>

	<p>続きまして、「第3次山形県循環型社会形成推進計画の中間見直しについて」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	(資料4により説明)
國方部会長	<p>ありがとうございました。ただいま事務局から説明がありましたが、これらに関して、委員の皆様から、御質問、御意見を頂戴したいと思えます。</p> <p>それでは、私から順番に指名させていただきます。お1人3分程度で御発言をお願いいたします。それでは、本間委員からお願いしたいと思えます。</p>
本間委員	<p>まず1点目は、環境計画と「2050年カーボンニュートラル実現」との関係です。計画には2050年に向けた記載が散見されますが、この計画は令和12年までの計画です。2050年に温室効果ガス排出量の実質ゼロを達成するには、この計画期間中にどこまで進める必要があるのか、その位置づけが少しわかりにくいと感じました。</p> <p>2点目は、施策の展開方向、6つのチャレンジについてです。方向性は理解できますが、中身に重複が多い印象です。例えば、人材確保について、施策の柱1の「人づくり」に含まれるはずなのに、施策の柱4に新しく追加されたり、再エネ導入や森林吸収源対策が複数の施策の柱に散らばっていたりして、整理が難しいと思いました。</p> <p>それから3点目は、「目指す将来の姿」についてです。施策の柱6の説明はとてもわかりやすいのですが、他の柱については、文字数や概念的な文言が多いせいか、理解しにくい印象です。より具体的でイメージしやすい表現にできないかと感じました。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>御指摘のとおり、カーボンニュートラルについては、2050年に向けて段階的に進める必要があり、その考え方は今の計画にも反映されています。今年が中間年なので、取組みが弱い部分を強化し、社会情勢に合わせて新しい概念も取り入れるために見直しをしています。このため、この計画は、2050年に向けた「ホップ・ステップ・ジャンプ」の一部と理解していただければと思います。</p>
本間委員	<p>もちろん計画はそのような作りだと思いますが、私が言いたかったのは、本当にこれで2050年にゼロになるのかが見えない、ということです。</p> <p>素案を見ると、目標がものすごく厳しいことはよくわかります。温室効果ガスの排出量について、2030年の段階でもかなり厳しい状況で、これをゼロにするのは本当に難しいのではないかと感じています。ですので、本気でカーボンニュートラルを実現するならば、今どこまでできているのか、そしてこれからどれだけ頑張らなければいけないのかを、より具体的に数字で示し</p>

	<p>た方がよいのではないかとということが、私の質問の趣旨です。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>最新の令和4年度のデータでは、温室効果ガスの排出量が27.7%減少しており、これは県のホームページでも公表しています。少しずつですが、着実に前進している状況です。この歩みを止めないために、今回の見直しにより、さらに前に進めていきたいと考えています。</p> <p>また、表現に重複があるのではないかと御指摘ですが、今後検討させていただき、御意見を反映できるように修正を進めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
國方部会長	<p>本間委員からは、各柱の「目指す将来の姿」について、施策の柱6のように簡潔にわかりやすく書いてほしいとの御発言もありましたので、ぜひ御考慮いただければと思います。</p> <p>次に、阿部委員お願いいたします。</p>
阿部委員	<p>1点目は、循環計画の施策の柱2について、高度な再資源化・省資源化技術の開発導入への重点的な支援を新規で行うとのことですが、その具体的な内容を教えてほしいと思います。</p> <p>また、次世代エネルギーについて、水素エネルギーを基本とするとのことでしたが、それ以外の新しい技術への支援はないのかという疑問が2点目です。</p> <p>3点目は、EVやV2Hの導入を進めるとのことですが、ハイブリッド車もまだ利用価値があると思うので、県の公用車がEVに限定されてしまうのか気になりました。</p> <p>4点目は、PFASの調査について、地下水も対象になるのかという疑問です。</p> <p>最後に、森林のCO<sub>2</sub>吸収量について、山形県は森林が多く吸収量も大きいと思うので、その利点をもっと活かさないかという提案です。</p>
事務局（循環型社会推進課長）	<p>循環計画の施策の柱2にある「高度な再資源化・省資源化技術の開発導入への重点的な支援」についてですが、具体的には、廃プラスチックや燃え殻、使用済み瓦、さらに社会的課題となっている太陽光パネルやリチウムイオン蓄電池などの再資源化・省資源化の技術の開発・導入を行う企業への支援をイメージしています。</p> <p>また、多様な主体間連携に向けたマッチングの機会の創出を考えておりました、こうした場でどのようなニーズがあるか見極めながら、こうした取り組みを支援していきたいと考えています。</p>
事務局（エネルギー政策）	<p>水素以外の新技術への開発支援はしないのかという質問についてですが、現状では、県内で技術開発そのものに取り組んでいる事例が少ないため、本</p>

推進課長)	<p>計画においては、すでに確立された技術を県内でどう活用していくか、その導入を支援することに重点を置いています。そのため、理解としては「開発支援」ではなく「導入支援」という方向になります。</p> <p>また、EVやPHEVなどの電気自動車については、県民の皆様が購入される際は、国の支援策を活用していただく形になりますが、県としては公用車でEVやPHEVの導入を進めております。さらに、災害時には外部電源として利用できる体制整備についても視野に入れて取組みを進めているところです。</p>
事務局（水大気環境課長）	<p>PFASについては、公共用水域、主に河川になりますけれども、地下水についても監視していきたいと考えております。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>最後に、CO<sub>2</sub>の森林吸収量についてです。先ほど令和4年度のデータで排出量27.7%減と申し上げましたが、これは県独自の計算で森林吸収量を算出し、その分を差し引いた結果の数値となります。</p>
國方部会長	<p>それでは井上委員お願いいたします。</p>
井上委員	<p>まず1点目ですが、施策の柱6に記載のある「災害時の石綿飛散防止対策とは具体的にどのようなものなのか、また循環計画に記載されている産業廃棄物のリサイクル率が計画策定時より悪化している要因に関してどう分析しているかお聞かせ願いたいです。</p> <p>2点目として、大規模災害事例を踏まえた県災害廃棄物処理計画の見直しに関して、どのような見直しをするのか一部でもいいので教えていただければと思います。</p>
事務局（水大気環境課長）	<p>1点目の災害時の石綿飛散防止対策についてですが、現時点では建築や住宅担当部局と連携して、まずは石綿が使われている建物を把握することから始めたいと考えています。それにより、地震などで建物が倒壊した場合に、石綿の除去が必要な建物の把握を進めやすくなると考えております。まずは情報収集から取り組んでいく方針です。</p>
事務局（循環型社会推進課長）	<p>産業廃棄物のリサイクル率についてですが、年度ごとに変動しながら推移しておりますが、直近の令和5年度については、リサイクル率の高い建設業からのがれき類の排出量が減ったことが影響し、全体のリサイクル率が低下したところです。</p>
事務局（廃棄物対策主幹）	<p>県災害廃棄物処理計画の見直しについてですが、現在の計画は平成29年度に策定されたものです。その後、県内では大規模な大雨災害等が頻発しており、最近の災害による廃棄物発生量のデータを踏まえ、さらに最新の住宅地</p>

<p>今村委員</p>	<p>図やハザードマップを参考にしながら、水害による災害廃棄物の発生量を推計し、それを計画に盛り込んでいきたいと考えています。</p> <p>まず、専門用語が並ぶのはある程度仕方ないと思いますが、用語の統一については、御配慮いただきたいと思います。例えば、施策の柱1における「学校におけるE S D推進」と「SDG s 学習会」などについては、同じような意味で表現がバラバラなので統一した方がよいと思います。</p> <p>人づくりに関しては、教育界の巻き込みが弱い印象です。学校や教育委員会との連携をもっと強化する必要があると思います。</p> <p>「2050年カーボンニュートラル実現」については、2030年、2040年と10年ごとの中期目標を示し、見直しを繰り返しながら進める方針を明記した方がわかりやすいと思います。</p> <p>施策の柱5の「野生鳥獣の適正な管理の推進」については、クマに関する現状を踏まえ、駆除や担い手不足への対応など、もう一步踏み込んだ記載が必要と考えます。</p> <p>最後に、「環境資産の活用・継承」のところで、「オオシラビソ林再生に向けた計画的な取組みの推進」とありますが、再生が必要なのは、オオシラビソ林だけではないと思いますので、オオシラビソ林の後に「等」を付け加えていただいた方がよいと思います。</p>
<p>事務局（みどり自然課長）</p>	<p>施策の柱5の鳥獣については、獣種ごとの管理計画が別にありますので、環境計画の中にどの程度表現を盛り込めるか検討したいと考えています。</p> <p>オオシラビソについては、蔵王の樹氷を形作る重要な樹種であるため、「オオシラビソ林再生」としているところですが、「等」を含めるかどうかについては、改めて検討したいと思います。</p>
<p>事務局（環境企画課長）</p>	<p>施策の柱1について、E S DとSDG s 学習という似た概念が別の言葉で記載されているので、何が適切な表現なのか改めて検討したいと考えています。</p> <p>また、カーボンニュートラル2050に関しては、この計画の立ち位置を明確に表記すべきという御意見をいただきましたので、併せて検討したいと思います。</p>
<p>國方部会長</p>	<p>それでは工藤委員お願いいたします。</p>
<p>工藤委員</p>	<p>まず、施策の柱2について、計画の中間見直しにもかわらず「2050年に温室効果ガス排出ゼロ」という表現があり、矛盾しているように感じました。中間見直しであれば、10年先を見通した施策にすべきだと思います。</p> <p>次に、施策の柱3の再生可能エネルギーの地産地消について、新たな地域新電力の設立に向けた支援とありますが、新しく設立しなくても、既存の事</p>

業者と協力した方が早く実現できるのではないかと思います。

また、地球温暖化対策として「徹底した省エネ」という表現がありますが、具体的にどのような取組みを指しているのかがわかりません。具体例を示していただけると理解しやすいと思います。

さらに、施策の柱4の循環型産業を担う人材の確保についてですが、どの分野においても人手不足が深刻な中、どのように人材を確保するのが重要だと思しますので、具体策があれば教えてください。

施策の柱5について、オオシラビソ林再生の目標が「植えて増やすこと」なのか「以前の状態に戻すこと」なのかを明確にすべきだと思いますし、今回の中間見直しで、どこまで達成しているべきなのかも示してほしいです。山形県の樹氷はとても美しく、私も残していきたいと思しますので、指標を明確にすることが重要だと思います。

最後に、環境教育についてですが、大学生になってからでは遅いと感じるので、小学生や中学生などの早い段階から環境への関心を高める取組みが必要だと思います

事務局（環境  
企画課長）

まず、「2050年カーボンニュートラル実現」という表現について、これは大きな目標であり、ここに向かって一步步つ着実に進めるための環境計画と理解いただければと思います。

現在見直しを進めているのは、2026年から2030年までの5年間の計画であり、まず2030年までどう進めるかを検討しているところです。つまり、2050年という遠く大きな目標に向けて、今後の5年間でどのようなステップを踏むかをしっかり考えていくということです。

それから、学生への環境教育についてですが、大学生からではなく、小中学生から始めるべきという御意見をいただきましたが、そのとおりだと思います。当課においても、小学生向けのデジタル教材を作成するなど、いろいろなアプローチを行っていますが、こうした小中学生への環境教育については、関係部局と連携してさらに力を入れて進めていきたいと考えています。

事務局（エネ  
ルギー政策  
推進課長）

施策の柱3の「再生可能エネルギーの地産地消」について、新たな地域新電力を設立しなくても、既存のものを活用すればいいのではという意見をいただきました。確かに県内には新電力会社が多々ございますが、県と同じ理念をもって、県と歩調を合わせて地産地消に取り組んでくれるところは限られており、そういった意味では、明確な目的を持って設立された地域新電力というものが大きなパートナーになると考えています。

実際、やまがた新電力のような例もありますし、こうした事業者を増やして、県内の需要家に県内で生まれた電力を供給できる体制を整えることが必要だと認識しています。

また、「徹底した省エネ」についてですが、具体的な中身の一例としては、家庭部門のエネルギー消費が多いので、国の省エネ基準に沿った建物づくり

	<p>や、再エネと組み合わせてエネルギー消費をゼロにするZEBやZEHの推進が考えられます。また、今年度においては省エネ家電の買替えキャンペーンを実施したところです。こうした対策を進めながら、県民の皆様に省エネの意識を広げていきたいと考えています。</p>
事務局（循環型社会推進課長）	<p>資源循環を担う産業の振興に関して、次世代の循環型産業を担う人材をどう確保するのかという質問をいただきました。循環型産業においても、人材不足が課題となっているため、今後人材確保に取り組みたいと考えていますが、まずは循環型産業がどのようなものなのかを広く知っていただくことが重要と考えております。例えば、やまがた環境展などのイベントにおいて情報発信したり、体験する機会を提供したり、教育機関と連携した施設見学や体験を通して理解を深めてもらう取り組みを進めます。こうした活動を通じて認知度を高め、将来的に就職も検討してもらえそうな場を作り、人材確保を推進していきたいと考えています。</p>
事務局（みどり自然課長）	<p>オオシラビソ林については、現在、環境計画とは別に、再生に向けた計画を作成しており、具体的な目標はそちらで議論することになりますが、端的に言えば、オオシラビソ林の再生が目標です。オオシラビソは成木になるまで約70年かかると言われているため、長期的な視点での計画づくりが必要です。</p> <p>委員の御指摘のとおり、この環境計画でどういった方向を目指すのかという表現が不足していると感じましたので、別の計画との整合性を図りながら、表現を検討していきたいと思います。</p>
國方部会長	<p>色摩委員お願いいたします。</p>
色摩委員	<p>施策の柱4の「3Rの推進による循環型社会の構築」についてですが、資料を見ると、ごみの排出量は減少傾向にあるものの、更なる取り組みが必要とされています。そう考えると、県としては3Rだけでなく、もう一段階進んだ旗振りをした方がよいのではないかと感じました。4R、5Rといった考え方を盛り込んだ方がよいのではないのでしょうか。</p> <p>また、施策の柱の6についてですが、担い手の確保が非常に重要だと思います。山形県の環境や水資源は、先人たちの努力によって守られてきたものです。次世代への継承とありますが、河川の環境整備などについて、地域の方々にもっと関わっていただく仕組みや情報発信が必要ではないのでしょうか。</p>
事務局（循環型社会推進課長）	<p>施策の柱4について、確かに資源循環をさらに進めるためには、4R、5Rといった考え方も重要ですが、今回の中間見直しでは、まずこれまでの3Rをしっかり定着させることを重視しているところです。</p>

事務局（水大気環境課長）	<p>施策の柱6の担い手の確保については、一例として、水道がなかった時代に、地域の人々が大切に守ってきた湧水を「里の名水・やまがた百選」に選定し、保全活動を続けてきた方々にスポットライトを当てながら、引き続き協力をお願いする取組みを進めているところです。</p>
國方部会長	<p>それでは、内藤委員お願いいたします。</p>
内藤委員	<p>施策の柱1の「ウェルビーイング」という言葉についてですが、素案に注釈がついてわかりやすくなったものの、もともと国の第6次環境基本計画から出た概念である点を明記した方が理解しやすいと思います。また、GXなどの専門用語についても、一般県民向けに説明を加えるべきだと思います。</p> <p>次に質問ですが、施策の柱3について、前回の資料では「本県沖の洋上風力導入に注力」と記載がありましたが、今回の資料では「大規模再エネ設備の導入拡大」という表現に変わっています。洋上風力への注目度がトーンダウンしたように見えますが、これは秋田県で大規模事業者が撤退した現状が影響しているのでしょうか。また、「大規模事業」には洋上風力以外にどのようなものが想定されるのかも伺いたいです。</p> <p>さらに施策の柱5について、クマの問題は県民の関心が非常に高いので、素案の該当箇所にクマ対策が喫緊の課題であることや、9月に創設された緊急銃猟制度に係る自治体の判断や責任に関する議論などを加筆すべきだと思います。また、令和6年にクマが指定管理鳥獣に指定されたことなどを受けた、「山形県版クマ被害総合対策パッケージ」により取組みを進めていることも紹介してほしいです。</p> <p>最後に、循環型社会形成推進計画の中間見直しについてですが、産業廃棄物税が環境事業に幅広く活用されておりますので、その記載も加えていただけるとよいと思います。</p>
事務局（エネルギー政策推進課長）	<p>施策の柱3について説明します。洋上風力に係る表現を変更した理由は、前回の中間見直し時点では、地域での意思形成がまだ途中だったためです。現在は、遊佐町沖が国の促進区域に指定され、事業者も決まった段階なので、事業化が進んだことを踏まえ、「注力」ではなく「導入拡大」という表現に改めました。秋田県における事業者の撤退が理由ではございません。なお、本県の事業者からは、需要環境が厳しい中ではありますが、しっかり取り組むというコメントをいただいています。</p> <p>また、洋上風力以外の大規模再エネについては、現時点では特定のものを想定できていない状況です。ただ、エネルギー戦略において150万kWの開発目標を掲げている一方、未だ半分程度の進捗となっておりますので、ある程度大型の案件は必要と考えております。バイオマス発電や中小水力などの可能性のあるものを、地元との協調を前提に導入を進めたいと考えております。</p>

事務局（みどり自然課長）	<p>クマ対策については、御指摘のとおり社会的にも非常に注目されている重要な課題だと認識しております。本計画では、保全や保護の視点も必要ですので、そのバランスを取りながら、御意見を踏まえて内容を検討していきたいと考えています。</p>
國方部会長	<p>それでは堀川委員お願いいたします。</p>
堀川委員	<p>専門用語が多すぎて、誰向けの資料なのか疑問に感じました。地球温暖化についてある程度学んでいる私でも、調べないと意味がわからない言葉が多くて、一般の県民には難しいのではないかと思います。誰に理解してもらうためにこの資料を作っているのか、そこを考えてほしいです。</p> <p>また、環境問題を「自分ごと」として捉えてもらうためには、今起きている課題と結びつけて説明することが大事だと思います。</p> <p>それから、本日の会議の進め方についてですが、事前に各委員から意見を集約しておいて、会議では意見に対する回答に集中する形にした方がよいのではないかと思います。</p>
事務局（環境企画課長）	<p>専門用語が多くてわかりにくいという点は、委員の御指摘どおりだと思います。素案の本文では、全体を通して、難しい言葉にはしっかり意味を付す対応を考えています。誰もが読んで理解できて、環境問題を「自分ごと」にさせていただききっかけになるような計画にしたいと考えているところでございます。御指摘ありがとうございます。</p>
事務局（進行役）	<p>会議の進め方についてですが、資料の送付が遅くなり、大変申し訳ございませんでした。皆様から御意見をいただくための貴重な場だということは、重々承知しておりますので、今後会議の進め方については検討してまいります。</p>
堀川委員	<p>資料をもっと早めにいただけると、委員の皆さんから質問や意見を集めやすくなると思います。質問をするにも時間が必要なので、その点をぜひ考慮してほしいです。一方で、質問や意見が非常に多岐にわたると思いますので、様式を作る際には、仕分けのルールを作るなど工夫が必要だと思います。</p>
國方部会長	<p>ありがとうございます。それでは、三浦委員、お願いいたします。</p>
三浦委員	<p>施策の柱1について、意識改革を掲げていますが、「県民総ぐるみ」という表現は現実的ではなく、今の時代には合わないと思います。</p> <p>むしろ重要なのは「担い手」の存在であり、それをより強調すべきだと感じました。担い手について、学校や家庭の話は出てきますが、産業における</p>

担い手という視点が抜けているのが問題だと思います。産業を含めた多様な担い手を支援することが重要であり、特にグリーン成長やGXをもっと計画に盛り込むべきです。

また、GXの中身が薄いと感ずるので、再エネ産業や省エネの推進のために、特に住宅や車といった生活に直結する分野について、産業側の担い手を育成することが必要です。

さらに、太陽光発電や蓄電池は、レジリエンス強化の項目に入っていますが、非常時だけでなく日常においても重要です。太陽光発電の産業としての担い手が、山形県には少なく、普及が進まない現状があります。補助金を出しても効果が出ていないと感ずるのは、産業の育成やコストダウンの視点が欠けているからではないでしょうか。計画の中に、こうした産業の担い手づくりとコスト低減をしっかりと位置づけることが必要だと思います。

事務局（エネルギー政策推進課長）  
國方部会長

三浦委員にも相談させていただきながら、しっかりと計画に記載できるよう対応してまいりますので、引き続きよろしく願いいたします。

それでは、東北経済産業局からお願いいたします。

東北経済産業局

循環計画の施策の柱2において、「循環経済への移行に向けた支援」とありますが、国でも関連する補助金を準備しておりますので、県と連携できるのではないかと考えております。

また、サーキュラーパートナーズに加入いただきありがとうございました。サーキュラーエコノミーを進めるうえでの国の枠組みであり、国と歩調を合わせて進めているところも見せられると思うので、計画への記載を検討いただければと思います。

事務局（循環型社会推進課長）

先日、サーキュラーパートナーズに参加させていただきましたので、今後の動向や施策を見ながら、一緒に取り組んでいければと思っています。引き続きよろしく願いいたします。

國方部会長

東北地方環境事務所の方からお願いいたします。

東北地方環境事務所

環境計画及び循環計画の素案には、いずれも「災害廃棄物処理計画の見直し」という表現がありますが、ここは非常に重要だと思います。山形県は、策定率自体は100%で評価されていますが、水害や豪雨を想定した処理計画に限ると、50%程度にとどまっています。

全国的にも同様に低い傾向にありますが、今後は山形県においても水害や豪雨を想定した計画の策定率を高める必要があると考えます。そのため、概要版においては「見直し」という表現でも仕方ないかもしれませんが、本文では豪雨や水害といった具体的な言葉を盛り込み、それに対応した見直しを

	<p>行うという表現にしていただけるとよいと思います。</p>
事務局（廃棄物対策主幹）	<p>御指摘のあったとおり、災害廃棄物処理計画については、水害についての内容が乏しいところがございますので、まずは来年度に県の計画を見直して内容を追加した上で、市町村の計画についても追加を促していく方針でございます。</p>
國方部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>最後に、私から2点発言させていただきます。1つ目は、施策の柱3において、地域と共生した再生可能エネルギーの導入により地域振興が図られるとありますが、私に関わっている自治体の現場では、再生可能エネルギーへの関心がまだ低いと感じています。ですので、ぜひ自治体間の連携をもっと深めていただいて、課題意識を共有しながら、進めていただきたいと思います。</p> <p>2つ目は、施策の柱1などで、「行動変容」という言葉が出てきますが、これは非常に難しい問題だと感じております。環境問題に限らずですが、関心をすでにお持ちの方は、自分ごととして捉えて、行動していただけていると思いますが、一方で関心を持っていない方々には、なかなか情報が伝わっていないというのが現実だと思っております。</p> <p>ですので、行動変容を本気で進めるということでしたら、関心を持っていない方に、どのようにして問題意識を伝えられるのか、それを本気になって御検討いただければと思っています。</p>
國方部会長	<p>他に御質問、御意見がないようですので、以上をもちまして、本日の議事を終了いたします。円滑な議事進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。</p>

—議事終了—

(5) その他（事務局から今後のスケジュールについて説明）

(6) 閉 会

議事録署名人 部会長 國 方 敬 司  
 委 員 井 上 洋 輔  
 委 員 工 藤 美 乃